

大阪市立大学医学部第一外科学教室

*Department of The First Surgery,
Osaka City University Medical School*

大阪市立大学第一外科学教室は、昭和23年4月、大阪市立医科大学の開校に伴い、澤田平十郎教授が初代教授として着任されたときにはじまる。第二代鈴木忠彦教授、第三代梅山 馨教授につづき、現在の曾和融生教授に至っている。

教室の消化器外科を中心とした一般外科の基礎は澤田教授が築かれ、その流れを現在も受け継いでいる。その間、教室において多くの外科医が臨床および研究に研鑽をつまれ各分野でご活躍中であるが、現在、同窓会員は500名近くになろうとしている。教室構成員は教授1名、助教授3名（うち1名は出向）、講師3名、助手8名、大学院生9名、研究医11名、研修医19名ならびに大学院研究生等で研究を行っている者を含めると総勢約70名である。

診療

対象臓器では消化器（食道、胃、大腸、肝、胆、膵）、内分泌（甲状腺、乳腺、副腎）を中心に幅広く診療を行い、これらに関連させて化学療法、代謝栄養、内視鏡下手術なども行っている。

研究

消化器癌を中心に腫瘍外科学の分野で研究を進め、癌の悪性度・転移の機序、腫瘍関連抗原、tumor cell biologyなどのテーマで分子生物学の手法を用い、基礎的・臨床的研究を行い、一方、肝・膵移植実験や外科侵襲についての研究も行っている。

教育

教育員には関連学会の認定医・専門医の修得を義務づけており、消化器外科学会専門医の修得を卒後10年目を目途に指導を行っている。現在、教室員の消化器外科学会の専門医は8名に達している。

対外交流

最近の教室員の海外留学先は下記のごとくで、同一施設において継続して研究を行っている。

Medical College of Ohio, Department of Surgery
University of California, San Francisco Gastrointestinal Research Laboratory
University of Sydney, Australian National Liver Transplantation Unit
University of California, San Francisco Liver Transplantation Division
University of California, San Diego Cancer Center

(文責 鄭 容錫)